

# 寺報

No.597

平成29年5月

蓮華寺  
發行

## 御聖訓

あやしあやしの畜生ちくじやうなんども恩おんをば報ほう  
 ずる事ことに候まうぞかし、かりと申もうす鳥とり  
 あり、必かならず母ははの死しなんとする時とき孝こう  
 をなす、畜生ちくじやうすら猶なほ此かくの如ごとし、況いわん  
 や人類にんるいをや。

『祈禱鈔』



母の日

### (解説)

「卑いやしい身といわれる畜生ですら、恩には報むくいる  
 ものです。

例えば、雁がんという鳥は自らの母が死ぬ時に、最善の  
 孝養を尽くすといえます。

畜生類に属す鳥でさえもこの通りですので、まして  
 すぐれた人間の身でありましたら、恩というものを  
 決して忘れてはいけません。」

日蓮大聖人は報恩という事を強く説かれました。

しかし、残念ながら現代人の多くは報恩を忘れ、何  
 でも自己中心にものを考え、自分の欲の為には他人  
 を裏切り、それがうまくいかない時は他人を恨むと  
 いったケースが頻ひん繁ぱんに起きています。

その結果、日常茶飯事のように殺人事件などが起こ  
 るのです。

もし、総ての人が法華経・お題目を唱え、人に物に  
 社会に、また先祖に報恩感謝し、今生きている事の  
 喜びと御本仏様に生かされている事の喜びを信じる  
 事が出来たら、この世は浄土となるのです。

五月十三日(土)

午後一時より

於：大本堂

# 会 誕 降 御 尊 釈 (花まつり)

誕生仏



\*お釈迦様のお誕生日、甘茶の日です。

\*皆様で、甘茶をかけお祝いしましょう。

\*お供物も受け付けています。

## お釈迦様の食事

皆様はすでにご存知のように、お釈迦様は生き物を殺してはいけないという『不殺生戒』を説かれました。ですから、当然お釈迦様自身は肉魚を食べなかつたとお思いでしょう。

ところが、実際お釈迦様は肉食を一律に禁じた事もなかつたし、また自らも食べたかもしれないのです。

何故なら、お釈迦様の時代は僧侶が自ら料理をする事もなく、『托鉢』たくはつといひ鉢ひとつを持ち近くの家を回り食べ物をもらつたり、時には信者から家に招かれ食事を戴いていました。

その場合の原則として、例えいかなる食べ物を信者から戴いても、決して本人の好き嫌いに関わらず拒否をしてはいけないという事でした。

ですから、肉でも魚でも野菜であつても、不平不満を言わずありがたくご供養を受けていたわけです。

しかし、お釈迦様は不殺生戒の教えを説いていますので、肉の供養については条件を付けたようです。

それは、

【見】生き物が、自分の為に殺されるのを自分の目で見た場合

【聞】生き物が、自分の為に殺されたことを、信ずべき人から聞いた場合

【疑】生き物が、自分の為に殺されたのではないかと疑いをもたれる場合

この「見」「聞」「疑」がない場合は、浄肉として食べても良いという事でした。

今でも、タイ・ミャンマー・スリランカでは、この教えを受け継ぎ守っているようですが、中国と日本と伝わってきた大乘仏教では、いつの間にか僧侶は肉を食べてはいけないことになってしまった、というわけですね。肉といつても、インドでは、当時バラモン教(今のヒンズー教)が全盛でしたから、その影響で神聖な神の使いである牛や、不浄な物の代表である豚を食べる習慣は、まずなかつたと考えられますので、多分ここでのいう肉とは羊と鳥の肉だと思われます。

ともかく、このように見てきますと、お釈迦様の説か

れた不殺生戒という戒律は、いわゆる無益な殺生をしてはいけないという教えだったので。

それは、仏教ではすべての生き物に仏性ぶつしょう(仏になる種)があると説くわけですから、動物の肉や魚の命を取つてはいけないが、米や野菜などの植物なら良いという事はなかつたのです。

つまり、現代でもそうですが、ただ観賞用として部屋に飾る為に狩りをしたり、またペットを粗末にして殺したりするようなたぐいの、無益な殺生を禁止したものと考えられます。

我が日蓮宗でも、寒巻百日間の大荒行や僧侶になる為の信行道場(三十五日間)では、修行期間中は一切肉や魚は口にしないで菜食のみとなっていますが、日常生活ではその規制などはありません。

しかし、良く考えてみますと、我々人間が生きて行く為には、必ず何かしら生き物の犠牲が必要なのです。動物、植物の区別なく常に感謝の意を込めて、心より供養して上げる事が大事なのではないでしょうか。

第五十九回蓮華寺聖徒団定時總會

『県内寺院参拝と懇親会』  
のお知らせ

今年度の蓮華寺聖徒団・定時總會の日程が決定しましたので、此処にお知らせ致します。  
今年度は碓ヶ関にあります「法華寺」(横山秀悠住職)を参拝し、ご開帳・總會を開催致します。  
その後、足を延ばしまして、秋田県の湯瀬温泉「湯瀬ホテル」に会場を移し、昼食と慰労を兼ねました懇親会を行います。

「法華寺」は二度目の参拝となりますが、十年以上経過していますので、是非ともこの機会を逃さず、沢山の皆様のご参加をお願い致します。  
皆様も、なかなか行けない県内の日蓮宗のお寺を参拝してみましよう。

なお、会員以外の皆様のご参加もご自由ですので、どしどしお申込み下さい。  
参加ご希望の方は、参加費を添えまして、お早目に事務所までお申込み下さい。

總會の日程

日 時：六月二十五日(日)

集 合：蓮華寺・・・午前八時三十分【時間厳守】

バ ス：出 発・・・午前九時

場 所：帰 着・・・午後五時頃予定

懇親会・・・法華寺(平川市)

(入浴施設はありますが、タオルは各自持参の事)

用：大人 五、五〇〇円  
子 供 三、〇〇〇円(小学生まで)

②ご開帳料、入館料、昼食代、交通費等を含む。

募 集：九十名(受付中)

持参品：数珠、聖徒団のタスキ、霊神符【お守り】

注意事項

一、法華寺での供養・祈願をご希望の方は、当日の朝受付です。

\*供養・祈願・・・各五百円

一、参加者は、必ず霊神符【お守り】を着体してきて下さい。

一、参加者は、全員聖徒団のタスキを使いますのでこの機会にお求め下さい。

\*聖徒団のタスキ・・・三千元(事務所迄)

檀信徒研修会のお知らせ

五月二十七日(土)

『聖典の読誦と唱題行』

担当・・・住職上人

\*聖典の読誦(三十分)と唱題行(三十五分)

☆お題目は七百回以上唱えられます。

時 間：午後七時より

場 所：小本堂「イスや安座にて結構です」

持参品：聖典(事務所にて)・数珠・団扇太鼓

\*月一度の修行ですので、どうか皆様もこの機会を逃さず、お経とお題目を心から唱えましょう。

☆靈 断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。  
日蓮宗に伝わる秘法『靈断』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。 ☎776-5840

【ご相談料は一件につき三、〇〇〇円です】

『位牌壇』募集!

◎分割は三年間の内に、回数はお相談下さい。

◎下から上席に上がるには、差額を納めて戴きます。

◎特に青森では冬期間、お墓参りが出来ませんので、位牌壇がありますと、常にお寺に参拝出来ます。

◎お寺に『位牌壇』がありますと、毎朝必ずお題目が唱えられますので、皆様の御先祖や仏様が今後に渡り守り続けられていきます。

『提灯』の急募!

当山で「鬼子母神大祭」「御会式」「お正月」の際に掲揚します『提灯』(トロー)を限定で三個募集致します。

作成価格は八千円で年間の管理費が二千円となりますので、初年度のみ一万円となります。

『聖徒団会員』募集!

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、住職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』・寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

### 「水子さん」のご供養

当山境内地の雪も消えましたので、今年も新たに『水子観音様』専用の「風車」をご供養の為に仕上げ下さい。

一体七〇〇円で、葉の部分に【供養・祈願】が書き入れる事が出来ますので、ご希望の方は事務所までお申し付け下さい。

また、当山では、この世に生を受ける事なく仏様の世界に旅立たれました水子さん、また早くに亡くなられた子供さんのご供養の為に、境内に『観音様』を安置しています。

この『観音様』の台座の中には、施主の名前を書き入れました「法名紙」が奉納出来ます。

各自、「水子」「子供」の戒名や俗名、また「水子一切の霊」などを書き入れてもらい、奉納して下さい。

★本堂で法要を行いご供養した後、「法名紙」を観音像の中に奉納する場合。 【二万円】

★観音像の前で直接ご供養し、「法名紙」を奉納する場合。 【一万円】

詳しくは当山にお問い合わせ下さい。

### 『朝のお勤め』のススメ

当山では、毎朝午前六時半より『朝勤会』を執り行っています。

時間は、大本堂く小本堂く位牌堂を回りまして、約一時間十分となっています。

聖典【お経本】を最初から順序よく読んでいきますので、どうぞ一緒にお読み下さい。

初めは難しいでしょうが、繰り返す事で段々慣れてくると思いますので、一生懸命頑張ってみましょう。

また、朝勤会に毎月の『祈願・供養』を申し込まれている方には、特に朝参りをお勧め致します。

唯、お寺にお願いするのだけではなく、少しでも時間を見つけて、自らが参拝する事が大事なのです。

そしてご自宅では中々出せない大きな声で、「法華経」「懺悔文」「お題目」を唱え、祈願・供養などの願い事が早く成就するようにと、集中してご祈念して下さい。

足の悪い方は、イスや安座にても結構です。

②朝の『祈願・供養』・一件、一ヶ月三千元です。

### ☆奉仕のお知らせ

十三日(土) 花まつりの準備とお手伝い

◎教宣部男女・・・午前十一時より

※『花まつり』の行事は、大本堂で十三日講のお勤めの中で執り行われています。

どうぞ、ご参拝かたがたお手伝いをよろしくお願い致します。

十九日(金) 龍神様・七面様大祭の準備とお手伝い

◎教宣部男女・・・午前十時より

\*当山客殿に於きまして、祭壇を設けて、行事を執り行っていますので、お手伝いをよろしくお願い致します。

奉仕部長・山田兼補 教宣部長・杉淵昌三  
伝道部長・小野正春

### ☆十三日(日蓮大聖人の月命日)の

お勤めには必ず参拝しましょう!

毎月十三日 午後一時より

### 五月の行事

一 日(月) 盛運祈願会 午後一時より

・毎月のお守り【霊神符】の交換の日です。

・必ずお勤めに参拝し、お題目とお経を唱え、感謝の気持ちを含めてお守りを交換しましょう。

・聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。



十三日(土) 日蓮大聖人のご命日 午後一時より

・お経 (如来神力品第二十一(訓読・日本語読み)  
(如来寿量品第十六(真読・漢字読み))

・どなた様も、大聖人への御報恩を忘れずに参拝しお題目とお経を唱えましょう。

十三日(土) 釈尊降誕会【花まつり】 午後一時より

十九日(金) 龍神様・七面様大祭 午後一時より

二十七日(土) 檀信徒研修会【唱題行】 午後七時より

# 龍神様・七面様大祭

五月十九日（金）

午後一時より

於：蓮華寺客殿



七面天女

- \* 龍神様・七面様の御神体ごしんたい、掛軸の御法楽（二千円）
- \* 一般御法楽（千円）、祈願（八百円）
- \* 御神酒、お供物も受け付けています。
- \* 祈願・御法楽をお申込みの方にお札ふだを差上げます。